

第9回 せんぼ医療感染講習会が開催されました

10月23日午後7時より「新型インフルエンザの脅威・大流行に備えて」というテーマで、行われました。昨年の11月に続いて、森兼先生の講演でした。新型インフルエンザに対するワクチンの有用性、新型インフルエンザウィルスのメカニズムと病状の特性、厚生労働省の取り組みなどさまざまなデータをもとにわかりやすくご解説いただきました。

折から市中においては大流行している時期でもあり、外部から71名、院内91名の計162名と記録的な参加人数となり、関心の高さがうかがわれました。



第10回 せんぼ医療感染講習会が開催されました

新型インフルエンザワクチンの接種が開始されて間もない12月4日午後7時から、開催されました。本格的シーズンに入った12月と1月はこれまでの検証ということで、インフルエンザ治療薬を題材として開催してまいります。

今回は「リレンザ」を取り上げ、メーカー及びICDである当院の辻小児科部長の講演が行われました。10月に引き続き大変多くの皆様にご参加いただき、今さらながら、インフルエンザに対する関心の高さを改めて感じた講習会でした。1月にはもう一つの治療薬である「タミフル」をテーマに開催いたします。

第6回 港区医師会・せんぼ東京高輪病院合同マナー&エチケットセミナー開催のお知らせ

テーマ 患者さんに選ばれる医療機関づくりをめざして
日時 平成22年2月15日(月) 19時~20時30分
場所 1階 外来ホール
講師 人材育成研究所 立川義浩先生

「連携協力医療機関 登録制度」発足について

日ごろ 多くの患者さんをご紹介いただき誠にありがとうございます。地域医療連絡室はスムーズに紹介をお受けできるよう、システムづくりを進めてまいりました。おかげさまで以前に比較して待つ時間が短くなった、断られることがなくなったとおほめの言葉を多くの先生方からいただいております。一方、まだまだご要望にお応えできず、ご不便・ご迷惑をおかけすることもございます。この度さらなるサービスの向上をめざして「連携協力医療機関 登録制度」を発足させることとなりました。先生方には主旨をご理解のうえ、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

新任医師のご紹介

平成21年10月1日付



いとうなおし
伊藤尚志
循環器科医師



すずきくにひこ
鈴木邦彦
整形外科医師



むらせしゅうへい
村瀬修平
整形外科医師

編集後記



新年あけましておめでとうございます。年末にお会いした先生から「地域の集まりで、各先生は、社会保険の再編成に伴い、せんぼ病院のこれからについて心配している」とのお話をいただきました。現段階では、平成25年3月31日までは現体制のまま存続することが決定しております。その後については今後の国会審議等で決定することとなりますが、健全経営が絶対条件であることは変わりありません。地域の基幹病院として存続するためには、先生方のご協力が必要不可欠でございます。今年もおいっそう、医療連携を充実してまいります。なにとぞご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

Contents

～院長室から～

病院の真のサービス精神とは？

院長 与芝 真彰

尿路結石破碎装置(ESWL)更新のお知らせ

せんぼ東京高輪病院泌尿器科
医長 石原順就

第12回地域医療懇話会・懇親会が開催されました

News&News

●第9回・10回せんぼ医療感染講習会が開催されました

●第6回マナー&エチケットセミナー開催のお知らせ

●「連携協力医療機関 登録制度」発足について

●新任医師のご紹介

病院理念

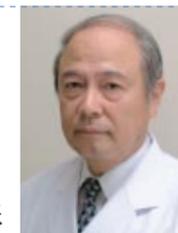
私たちは、病に苦しむ人や障害に悩む人に科学的根拠に基づく最善の先進的医療を迅速かつ安全に提供するとともに、人権と個人情報の保護を心がけ、相互信頼に基づく快適な医療の実践に努めます。 せんぼ東京高輪病院

～院長室から～

病院の真のサービス精神とは？

せんぼ東京高輪病院
院長

与芝 真彰



明けましておめでとうございます。日頃お世話になっている診療所、病院の医師を始めとする職員の皆様には御健勝に新年をお迎えになったものと思います。

昨年は戦後初めての政権交代があり、「コンクリートから人へ」のスローガンのもとに「ハコモノ」公共工事から福祉、医療、介護重視へと政策転換が行われ、本年は少しは医療環境が改善する事を期待したいと思います。

当院は御存知のように財団法人の船員保険会が経営する3病院のうちの1つです。船員保険会は昭和16年11月21日太平洋戦争前夜に軍に徴用される民間船舶の船員の福祉医療のために設立されました。事実、戦争中6万人もの民間の船員の方々が犠牲となりました。痛ましい事です。戦後も船員保険会は船員のための保健福祉事業を主要な業務としてまいりましたが、漸次日本人船員数も減少し、最近3病院共に地域医療に事業目的を移しております。先述のように当院は国策に沿った公的病院でしたので、とすればお役所的な色彩もあったかもしれませんが、今後は民間病院に十分競合できるサービス精神を持った病院にならなければならないと考えております。

最近当院では患者さんをお呼ぶ時「・・・様」ではなく、「・・・さん」に統一しました。確かに病院はサービス業であり、ホテル、デパート、スーパー、飲食店、バー、クラブと同様、職員は顧客に満足を与え対価を得て生計を立てているので、患者はお客様と言えない事はないでしょう。また、接客態度の悪かった区役所を始め、国の公共施設も徐々に「・・・様」と呼ぶ所が増えています。

しかし、医療機関は他のサービス業とは異なる側面を持っています。それは医師、看護師、薬剤師というよう

に職員の多くは「師」として尊称を与えられるべき専門的知識と技術を持った職能集団であり、患者さんはその優秀なプロフェッショナルとしての能力を期待して病院にやって来ています。この点ではホテル、デパート、バー、クラブ等接客雰囲気売っている商売とは決定的に異なります。

いくら「様」を付けて呼ばれても誤診と事故だらけの医師、思いやりも心遣いもない看護師、専門知識のない薬剤師ばかりの病院に患者さんは行くでしょうか。「様」と呼んでも後ろを向いた途端に、ペロリと舌を出すような気持ちだと患者さんは必ず見抜くものです。逆に「様」など付けなくても、良い医師、看護師、薬剤師がそろっていれば患者さんは来ると思います。私は病院が真のサービス精神に目覚めるのであれば、例えば患者さんの待ち時間を少しでも減らすか、待ち時間を知らせるサービスをした方が良いと思います。その方が「・・・様」と呼ぶよりよほど努力が必要です。

区役所などの官庁や病院は人を待たせる施設の代名詞のようになっています。待ち時間が長い程人気があったり、名医である事の表れとして誇りにしている医師も居ると思います。確かにその一面もあり、患者さんの中には覚悟して本を持ってきたりする人も居ます。しかし、他人の貴重な時間、特に身体の悪い患者さんの時間を浪費する権利は誰にもないと思います。

私は病院長に就任以来、当院の真のサービス精神をどのように表現すべきか考えてきました。その1つの方向が患者さんを待たせない病院に向かって限りなく努力することだと思っています。現在中川副院長を中心に具体案の検討を始めて頂いています。職員の努力に期待したいと思っています。

尿路結石破碎装置(ESWL)更新のお知らせ

せんぼ東京高輪病院泌尿器科 医長 石原順就

平素より近隣の先生方には尿路結石患者さんを多数ご紹介いただき、ありがとうございます。

さて、以前からご案内のとおり、当院では尿路結石に対し積極的に体外衝撃波碎石術 (ESWL)を施行しています。当院のESWL治療は約20年の歴史を有しており、この度3代目の装置に更新いたしましたのでここにご紹介いたします。

1980年2月にドイツでDornier社開発の装置により初めてESWLが人体に臨床応用されました。その後これが日本で保険収載されてまもなく、当院では同社の第1世代破碎装置HM-3 (Human Model-3)をいち早く導入し、治療を開始しました。これはバスタブ型の、いわゆる「プールに浸かる」装置であり、患者さんの中には当時は懐かしむ方もおられます。

その後、同じDornier社の装置でメンブレン型 (プールに浸からない) のLithotripter U50を導入し、11年間使用してきました。この度、同社の最新型破碎装置Lithotripter Delta IIを2009年7月に使用開始いたしました。



この機種は従来型に比して透視力が強く、体表に接触するメンブレンが新材質に変更されてX線透過度が高い上に、透視のCアームを傾ける際の自由度が3方向に拡大されたことも相まって、透視による位置合わせの精度が増しています。碎石終了までのセッション数が少なくなり、患者さんの負担も減少しています。破碎のパワーが高いため、ペンタゾシン等にて鎮痛を十分に行うことから一泊二日の入院としています。施術時間は約50分です。破碎効果が良好であるため、術

当日から破砕片の落下に伴う痙攣発作を生じる方もあり、結果的に入院してよかったとおっしゃる患者さんが多いです。術翌日は10時ごろまでに退院していただきますので、勤務をお持ちの方には即復帰可である旨お伝えしています。

先生方からご紹介いただきました患者さんのX線画像 (KUB)をお示いたします。

破砕前



破砕後



サイズの大きい結石に対してはステント留置下のESWL、破碎されても尿管からの剥がれのよくない嵌頓結石や膀胱内の結石に対しては内視鏡手術 (TUL)を行っており、先生方からご紹介いただくすべての尿路結石患者さんに対応させていただき所存しております。今後ともご紹介のほどよろしくようお願い申し上げます。

第12回地域医療懇話会・懇親会が開催されました



懇話会

昨年11月20日 金曜日7時からグランドプリンス新高輪ホテル、国際館パミール「青葉」にて懇話会が開催されました。一昨年からの新しい試みとして、それまでの土曜日午後から平日夜の開催に変更して、2回目になります。



医師会古野副会長挨拶

会を重ねるごとに多くの先生方より参加のお申し込みをいただき、今年はいつもの会場を変更しての開催となりました。懇話会の演題は4月から赴任しております与芝院長が、専門としている劇症肝炎を中心に「肝臓病を悟る」と題して講演させていただきました。肝臓病全体についてもメカニズム、治療法の変遷など時代背景を織り交ぜながら、また医師の立場だけではなく、ときには浄土宗住職としての立場からお話いただきました。



院長挨拶

参加された先生方から「大変新鮮で興味深い内容でよかった」と感想をいただきました。引き続き隣の「若葉」で懇親会が開催されました。来賓の港区医師会 古野副会長

のごあいさつの後、同じく港区医師会高輪地区世話人 渡辺先生のご発声による乾杯で始まりました。先生方と当院医師との年に一度の顔合わせになります。ご紹介いただいた患者さんの話や最近の医療に関する話題など和やかな雰囲気の中で過ごしていただきました。



小山副院長挨拶

また、これも一昨年からの試みですが、受付でお渡しする資料の中に、各先生個別にご紹介いただいた患者さんと担当した当院医師のリストも配布させていただいており、顔合わせの参考資料としてご覧いただいております。「リストを見て先生とあいさつできてよかった」とおほめの言葉も頂戴いたしました。



懇親会乾杯

遅い時間にもかかわらず、また診療後のお疲れのところ、これまでにない70人以上の先生方に参加いただき、スタッフ一同感謝しております。大変ありがとうございました。

せんぼ東京高輪病院は、顔の見える医療連携をスローガンに今後ともいっそう連携を深めてまいります。先生方には、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。